

客室乗務員さんの気配り

東日本大震災の次の年2012年11月29日と30日の両日、長崎県で行われた全国スポーツ推進委員研究協議会に於いて西川町が優良団体表彰をいただいた時の話です。

私は良いチャンスと思い妻と二人で11月28日前日に山形～東京～長崎便で前乗り、私が二日間の表彰・協議会に出席している間、妻は仕事の関係で長崎にいる西川出身で親戚の娘さんと市内観光を楽しんでいた。全日程を終え稲佐山の夜景、ハウステンボスのイルミネーション等の思い出を胸に、12月1日、14時35分発の飛行機に乗る為長崎空港に向かった。

JAL2374便大阪行き17Aと17Cが私達の席。時間通り離陸、どこまで来た頃か一人の客室乗務員さんに「荒木さんですね」と声をかけられた。「そうです」と答えると「この飛行機は山形まで行きますよ」と教えてくれた。しばらくして大阪空港到着、そのまま機内で待っていてもいいか確認したところ、一度貴重品だけ持って空港内のロビーで待つ様にとのこと。チケットの予約の際、山形までの機種が同じだったので席番は同じ場所を予約していた。その時同一機体が長崎～山形を飛ぶとは思いませんでした。

大阪16時15分発のJAL2237便。同じ機体に再搭乗、席番同じく17Aと17C。これもまた時間通り離陸。水平飛行に入るとお茶のサービスと共にルートマップを持ってきてくれた。そこには「私たちの手作りです」と書いてあった。そのマップの余白部分には、便名、客室乗務員さん三人の名前、高度、巡航速度、新潟上空の通過時刻等々書いてあった。他の乗客の方もいたが、色々な話をしながらのあっという間の空の旅だった。

時間通り17時30分に山形空港着。名残惜しく最後に席を立ち出口に向かうと、客室乗務員さん、ボーディングブリッジの操作員、機長までが勢揃い一緒に記念写真を撮り私達を見送ってくれた。

長崎14時35分発～山形17時30分着の3時間の空の旅は、乗務員さんの「気配り」によって私達夫婦にとってかけがえの無い思い出となり、今でも会話の中に出てくる事がある。

最後に乗務員さんに今乗ってきた機体はどこに帰るのか聞いたところ、大阪空港経由宮崎行きとのことでした。

皆様お疲れ様でした。